

令和5年度第1回刈谷市総合教育会議 議事録

1 日 時

令和6年1月25日（木）午後4時～午後5時

2 場 所

刈谷市役所 701会議室

3 議 題

(1) 意見交換 テーマ「子どもたちをとりまく教育環境について」

4 出席者

市 長	稲垣 武
教育委員会 教育長	金原 宏
教育委員会 委員（教育長職務代理者）	小川 耕示
教育委員会 委員	石田 芳加
教育委員会 委員	鶴田 英孝
教育委員会 委員	浅井 優

5 会議構成員以外の出席者及び事務局

教育部長	岡部 直樹
教育総務課長	石崎 伸一
教育総務課 課長補佐兼施設係長	加藤 史彦
教育総務課 総務係長	溝口 香織
学校教育課 課長補佐兼特別支援係長	川瀬 秀樹
学校教育課 指導主事兼指導係長	中村 雅至
企画財政部長	村口 文希
企画調整監兼企画政策課長	高橋 盟
企画政策課 課長補佐兼政策推進係長	内野 康孝
企画政策課 経営管理係長	池田 陽一郎
企画政策課 主査（書記）	中野 裕貴

6 傍聴人

1名

1 市長あいさつ

皆様こんにちは。本日は大変お忙しい中、総合教育会議にお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

今年は新年早々に能登半島地震が発生しました。愛知県でも揺れを感じましたので「ついに南海トラフ地震が来たのか」と身構えた方もお見えだったかもしれません。亡くなられた方にはお悔やみを申し上げ、被災された皆様にはお見舞いを申し上げたいと思います。

被災地支援ということで本市はトイレトレーラーや応急給水業務の支援のための職員を既に被災地へ派遣いたしました。また、下水道管路被害調査や、罹災証明の発行に向けた家屋の被害認定調査に対応するために職員を現地に派遣しております。雪などの天候の問題や半島という地理的な問題も重なり、復旧復興にはおそらく時間がかかるであろうと思われまので、今後も広域的に、自治体間で支援をしていく必要があるだろうと考えております。

さて、本日は「子どもたちをとりまく教育環境について」をテーマに会議を開催いたしますが、国においてはこども家庭庁が創設され、来年度はその施策のスタートの年になります。児童手当の拡充など、子育て世帯に対する経済的支援の強化が図られるようです。

また、今年度は愛知県がラーケーションの日と県民の日学校ホリデーを創設しました。先日、クラシックバレエをやっている小中学生の児童・生徒が表敬訪問に来てくれたのですが、インドネシアのバリ島に国際交流に行かれたということでした。長期休みの期間ではないのにどうやって対応したのだらうと不思議に思っていると、ラーケーションの日を活用したとのことで、制度が浸透していることを実感いたしました。

そして、本市としましては、2学期末まで給食費の無償提供を、物価高対策ということで実施しております。加えて、子育て世帯への経済的支援ということで、小学校と中学校の修学旅行にかかる費用について、小学生は2万円、中学生は4万円を補助することとしたところ です。

本日は皆様のお力添えをいただきながら、有意義な会議にできればと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

2 議 題

(1) 意見交換 テーマ「子どもたちをとりまく教育環境について」

・学校教育課課長補佐及び教育総務課長から資料1について説明

<以下各委員意見等要約>

小川委員

昨年、各学校を訪問させていただき感じたのですが、刈谷市は不登校対策に非常に手厚く人材を投入していただいております。ICT教育についても早くから導入いただき、こちらも刈谷市はかなり進んでいると思います。また、体育館の空調設備については避難所機能も兼ねておられるようですが、学校施設の整備についても着実に進めていただいております。刈谷市の教育環境は人的・設備的双方充実していると感じているところです。

しかし、大切なのはこれらの取組が災害時などの非常時にしっかりと機能するかという点です。ビジネスの世界ではBCPを作成しています。実際の災害時にBCPが上手く機能するかどうか難しいところもあるかもしれませんが、そうやって非常時に備えているわけです。これは教育現場においても重要なことではないでしょうか。子どもたちが避難した場合は別の学校に通うこともあるでしょうし、最近は刈谷市公式LINEの普及にも努めておられるようですが、そういったツールを活用した情報発信手段に取り組むなどの対策も重要です。行政の皆様にはぜひBCPならぬ「ECP」の充実に努めていただきたいと思います。引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

市長

ありがとうございます。

防災面で補足させていただきますと、既に校舎・体育館ともに耐震化は完了しており、本市としてとれる対策はやってあるという状況です。

また、委員がおっしゃるように実際に地震が発生した際に、学校をどう運営するかというところは非常に重要だと考えています。この点について、教育委員会から現状をご説明いただければと思うのですが、いかがでしょうか。

教育部長

先ほどBCPの話がありましたが、大まかなものは既に作成してありますので、あとは実際に災害が発生した際に、これに沿って対応できるかどうかであると思います。能登半島地震においても、学校は避難所になり、体育館を使う方もいらっしゃるでしょう、小さなお子様やご高齢の方向けに教室を使用している場合もあるようです。そもそも教員自身も被災しています。我々としては、直面する状況に応じて柔軟に対応していかざるをえないので、引き続き各学校と連携の上、備えてまいりたいと考えています。

市長

ありがとうございます。

能登半島地震においては断水が大きな問題になっています。トイレトレーラーは能登町に派遣しているのですが、水がないと水洗トイレとして機能しません。学校も同じでトイレがあっても水がなければ流せません。下水道も同じで、流れてきた汚物は水がなければ詰まってしまいます。実際に被災地に派遣した本市の職員が下水道から汚物が溢れてしまっている現場を確認しています。また、基幹管路が復旧し、断水が解消されたといっても、各家庭の水道管の修理が進まないという事態もあるようです。なお、本市においては、給水に重要である基幹管路については耐震化が97%完了しております。現在は避難所や病院などの施設に給水する管路の耐震化を順次進めているところです。

先ほどLINEの話もありましたが、現在8万人強の方が本市と友だちになってくれてあります。能登半島地震でもLINEはつながったという話を聞いておりますので、そういったツールも活用していけたらと思います。

それでは石田委員お願いします。

石田委員

昨今の社会情勢はスピードの速さを感じます。特にコロナ禍以降の1年1年はとても早く感じます。そういった中で日々新しい価値観が生まれ、子どもたちにも影響を与えています。心身の調子を崩したり、表情や感情が希薄だと思われる子がいたり、中には健全な成長ができていくか心配になるケースもあるということをお医者様や教育関係者の方々から伺うこともあります。先ほどの事務局からの説明を伺い、刈谷市には多くのサポートがあると感じました。そういったサポートを利用していただいて、一歩でも前に踏み出してもらえたらと思います。

一方で、子どもたちのサポートには、見えない環境をより良くしていくことも重要です。その点について3つお話させていただきます。

1つ目は、しっかり眠れる環境づくりです。私自身の経験ですが、6年間ほど寝る間を惜しんで家族の看病をしながら育児をしたことがあり、その時に睡眠の重要性を痛感しました。質の高い睡眠をとっていると、翌朝起きるのが楽しみになります。これは子どもたちの心の健やかな発達にはとても重要であると思います。

2つ目は、フェアな交流ができる環境づくりです。「子どもはこれくらいしかできない」と一方的に制限を設けてしまう大人が多いと感じます。本来フラットな関係であり、一人の人間として尊重すべき相手であることを普段から意識して接することで、子どもたちの自己肯定感も高まりますので、このような関係性を当たり前にする環境づくりを更に進めていけたらと思います。

3つ目は、自分の心の声を信じていいという環境づくりです。自分の考えを発言することで相手を傷つけてしまうのではないかと、迷わせるのではないかと考えてしまう、同調することが癖になってしまっている子どもは多いと思います。もちろん自分勝手な言動は慎むべきだとは思いますが、自分の意見を発言することが、相手を喜ばせることもあるということに意識を向けてもらいたいです。いつも他人の意見に委ねてばかりでは、やがて自分の本心がわからなくなり、それが当たり前となって麻痺してしまいます。社会に出た際に、常に他人のものさしで物事を判断してしまい、いつか戸惑い・迷いに直面します。まずは自分の心の声に素直に耳を傾けて、相手に伝わる言葉で発信してもよいということを教育現場で伝えてもらいたいです。人として互いを尊重し合えば、その土台は築かれます。謝らなくてもいい状況で謝ってしまうことがよくありますが、そうではなく、自然と心から溢れる「ありがとう」を広げていける刈谷市であってほしいです。教育大綱にある「共に生き、未来を創造する子ども」が育まれるよう、これからも邁進され、子どもたちが豊かに成長できるまちづくりをお願いしたいと思います。

市長

ありがとうございました。

それでは鶴田委員お願いします。

鶴田委員

学校訪問に同行させていただいた際、今までなかなか行うことのできなかった地域との様々な関わりが復活してきていることがとても印象的でした。これまでは子どもたちが地域に出向いてボランティアを行うといった活動が多かったように思いますが、現在は地域学校協働活動を推進しておられるということで、地域の方々が学校で子どもたちをサポートしていただく様子が見受けられるようになりました。これは人づてに聞いた話ですが、プール清掃や監視、夏休みの図書室運営補助、登下校見守り、学校によっては給食の補助もしていただいているようです。私が訪問した学校では、家庭科の裁縫の授業に地域の方が入ってサポートをしておられました。これまではPTAやおやじの会のような団体がサポートを主に担っておられましたが、今は地域の様々な方からサポートしていただいているようです。各学校とも謙遜されて「まだまだ始まったばかりですから」とおっしゃいますが、私として非常に良いスタートが切れていると感じました。

コロナは子どもたちに大きな影響を与えたと思います。特に人との関わりが希薄になったことにより、自己有用感や自己肯定感の形成について大きな影響があったのではないかと思います。今回多くの学校を訪問する中で「一人ひとりに寄り添う」という言葉をたくさん聞きました。決して新しい取組姿勢ではありませんが、改めて重要視しておられるのだなということがとても伝わってきました。また、校則について子どもたちに考えさせるなど、自主性・主体性を重んじる姿勢も強く感じられました。

研究発表に参加した際は、子どもたち自身が知りたいと感じるようなきっかけづくりを意識した授業をされておられました。そのために教材も工夫が見られ、先ほどICT教育の話も出ましたが、タブレットで自分の課題解決内容や意見を共有し、それが全体の意見の中ではどういうポジションなのかということを確認したりしていました。個人の意見を尊重しつつ、全体の意見も大切にしておられました。

コロナで環境の変化は大変なものでありましたが、「一人ひとりに寄り添う」ことを大切に、子どものストレスと向き合いながら、この状況をきっかけにICT教育の推進や主体性を重視するなど、新しい学びの環境をつくっていただいているなど感じました。ぜひこれからも、この取組を進めていただきたいと思います。

市長

コロナの関係で失われていたものが少しずつ戻りつつある気がします。地域学校協働活動がだんだんと浸透することで、将来、より良い教育環境を作っていけると思っています。ICT教育についても、引き続き上手く進めていけたらと思っています。

それでは浅井委員をお願いします。

浅井委員

私は意見を原稿にまとめてまいりましたので、読み上げさせていただきます。

今回のテーマである教育環境を考えるにあたって、教育とは何か辞書で調べてみたところ

ろ、「他人に対して意図的な働きかけを行うことによって、その人を望ましい方向へ変化させること、広義には人間形成に作用する全ての精神的影響をいい、その活動が行われる場により、家庭教育、学校教育、社会教育に大別される」ということだそうです。家庭教育は親や家族、または親族から受ける精神的影響、学校教育は教師、友人、先輩、後輩などから受ける精神的影響、社会教育は家庭と学校以外の環境下における精神的影響と考えますと、日々生活している中で、周囲で起こりうる事象、触れる情報や刺激、全ての環境、いわば毎日の生活自体が子どもたちを取り巻く教育環境と言えるのではないのでしょうか。SNSや、ネットの普及で、世界中の多様な情報に触れられるこの時代、良くも悪くもその膨大な量の刺激や精神的影響を受けられる状態になっています。そこで必要となるのは、その数多くの情報や刺激を受け止め、時には受け流し、噛み砕き、精査し、取捨選択の判断をする力ではないのでしょうか。それは、身近で一般的には教育を施す側の人間とされている大人から受ける影響であっても同様のことではないのでしょうか。親である私自身の経験ですが、先日見た教育虐待に関するテレビ番組で、いくつか自分が子どもに対して行っていた言動が重なり、ちょっとドキドキしてしまったことがあります。例えば学校教育を施す側とされる教師においても、子どもがああ先生の言うことを納得いかないと訴えることが幾度かあり、詳細を聞くと確かにそれは理不尽だと思うことがありました。このように、身近で一般的には教育を施す側とされる親や教師ですら、個人によって意見が異なったり、ときには間違ったことを言うこともあると思います。親や教師、大人だから必ずしも毎回正しいことを言っているとは限りません。著名な学者や知識人ですら、立場や見方が違えば様々な意見や考えが飛び交います。何が正しくて何が間違っているかは、時と場合、人や立場、時代によっても変容し得るのではないのでしょうか。ですので、子どもが日々受ける情報や刺激全てに親や教師、大人がバイアスをかけるのではなく、子ども自身がダイレクトにたくさんの事象に触れて、聞いて、考えて、経験して、時には間違ったり失敗したりしながら自身における真理や正義、自分の核となるものを作っていくことも必要ではないのでしょうか。親や周りの大人がそのような教育環境を作るためには、大人の価値観を押し付けたり、バイアスをかけたりせず、まずは子ども自身が考え、行動してみる環境を作る、先回りして舗装した安全な道を歩かせるのではなく、でこぼこ道を転びながらも、子ども自身が四苦八苦しながら歩く姿を、大人が一步引いたところで見守り観察する姿勢も大事なのではないのでしょうか。また、大人自身も教育を与える側として存在するのではなく、むしろ凝り固まった思考やパターンを、時代とともにアップデートし、日々起きる事象全てのことが自身に影響を及ぼすのだと、大人自身も日々教育を受けているのだと謙虚に受け止め、柔軟に変容していく必要があるのではないのでしょうか。

最後になりますが、今回のテーマを考えるにあたり、教育基本法における教育の目的というものを恥ずかしながら初めて目にしました。教育は人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として、真理と正義を愛し、個人の価値を尊び、勤労と責任を重んじ、自主的精神に満ちた心身ともに健康な国民の育成を期して行わなければならないということだそうです。どこにも良い大学に入りなさい、大企業に勤めなさい、お金持ちになりなさい、有名になりなさい、一流になりなさい、とは書かれておりませんでした。

平和的な国家および社会の形成者として、真理と正義を愛しましょう、個人の価値を尊びましょう、勤労と責任を持ちましょう、自主的精神に満ちていましょう、心身ともに健康でありましょう。日々自身の子どもに向けている発言や態度を改めて思い返し、反省のため息が出た次第です。

市長

ありがとうございました。

それでは教育長よろしく申し上げます。

教育長

まず不登校対策ですが、すこやか教室は北中南部に各1つずつありますが、そこには3人ずつ先生がいます。学校まで来られる子はほっとルームがあり、教室に入れない子は保健室登校や夕方登校、またはスクールカウンセラーを利用するなど、子どもが自分の居場所を選択できるのがとてもよいことであると感じています。

今年度ほっとルームには現在6中学校で69名が在籍しています。アシスタントも9名配置しており、相談件数は今年度4月から12月で合計4,058件でした。1校あたり676件、ひと月に換算すると75件ということで、1校あたり1日3件の相談がある計算になります。

すこやか教室には74人が登録しています。今回で3年目になりますが、長期欠席者向けの進学説明会を実施しています。今年度は103名の親子が参加してくれました。講師は刈谷東高校の方や専修学校などをお願いしています。参加者のアンケート結果も98%の方が「よかった」・「どちらかと言えばよかった」と回答しており、「私でも進学できるとわかった」や「先生がとても楽しそうに学校の説明をしてくれたので、行きたくなった」という声をいただいています。不登校対策は生徒指導の観点で話されることが多いのですが、子どもたちの未来を考えるという意味では、進路指導の観点も非常に重要だと感じています。

心の教室相談員ですが、今年度1・2学期で中学校は2,760件、小学校は1,507件の相談がありました。

愛知県のスクールカウンセラーについて、今年度から刈谷市独自の取組として相談時間を追加しておりますが、小中学校あわせて今年度は12月までに1,500件の相談がありました。かなりの相談が来ているなという印象です。

また、今年度から子ども相談センターに2名のスクールソーシャルワーカーを配置しましたが、292件の相談がありました。

このように、1つ1つの事業はかなりの成果を上げていますが、不登校が減っているわけではありませんので、今後もこれらの活動を地道に継続することで、1人でも多くの子どもを救ってあげたいと考えています。

ICT教育環境の整備について、タブレット、プロジェクター、大型ディスプレイを整えていただき、授業がとてもわかりやすくなりました。特に壁掛けのスクリーンとプロジ

ェクターは便利で、先生方の教材研究時間が大幅に削減できています。その他にも英語の発音確認や、体育の自分の動きを映像で確認したり、プレゼンテーションに活用したり、子どもたちの授業に参加する意欲を高めることにつながっていると思います。

学校施設整備については、体育館空調がとても好評です。熱中症が懸念される時期も体育の授業を欠かすことなく実施できております。また児童クラブや敬老会、地区の防災訓練でも活用されています。県外からの視察も多くあり、すばらしい環境を整えていただきありがたいと感じているところです。

市長

ありがとうございました。

人口減少に社会全体が直面する中で、皆様に住みたいと思っていただくまちであるためには、小中学校の環境整備はとても重要だと考えています。

ソフト事業についてですが、子どもたちが自分にどれだけ愛情をかけてもらっているか、それは学校生活においても感じる事だと思ひますし、それが自己有用感につながると思ひます。親はどうしても自分の子どもにプレッシャーをかけてしまいがちです。ただ、子どもがそれを愛情だと捉えられるかどうか、そう感じてもらえるような関係性を築けているかということがとても重要です。言葉をかけるタイミングも難しいものです。こういったことは学校生活においても言える事だと思ひます。子どもたちの自己有用感の形成に寄与するため、ぜひ今後とも子ども一人ひとりに寄り添う教育環境を形成していただきたいと思ひます。

その他

令和6年度総合教育会議 1月の定例教育委員会に合わせて1回開催予定